

白石の復興と成長を願う
市民の皆さまと共に歩んでいきたい
そして、東日本大震災の教訓を未来の白石につなげたい
— For The Next Stage in SHIROISHI —



白石市議会議長

保科惣一郎
Hoshina Soichiro

白石市長

風間康静
Kazama Kojo

謹んで年頭のごあいさつを申し上げます。東日本大震災により亡くなられた皆さまに深く哀悼の意を表し、被害を受けられた皆さまに心からお見舞い申し上げます。

いざ、復興！「がんばっぺ 白石」
安心・安全で快適に過ごせるまちへ—

白石市長
風間 康 静

今 までは経験したことがないあの大地震から、早くも10カ月が経過しようとしています。内陸部の本市においても、多くの家屋の倒壊やライフラインが寸断されたことから、約2千人の方が避難したのをはじめ、市が管理する道路・施設も総額60億円を超える甚大な被害を受け、まさしく「史上最大」の被害となりました。

しかし、自治会や自主防災組織、消防団など「地域の力」による献身的な協力をはじめ、姉妹・友好都市からは被災直後から多大なるご支援をいただきました。さらには、全国の多くの方々から善意のご支援をいただき、これまで培われてきた「絆」に勇気付けられました。

おかげさまで、被災した公共施設の復旧に伴い市内各地でイベントが活発に行われ、現在では震災前の活気を取り戻しつつあります。

特に、昨年10月1日の「第4回鬼小十郎まつり」は、まるで復興の狼煙とも受け取れるように全国から8千人の方が訪れ、大いに賑わいました。これもひとえに、一日も早い復興を

願う気持ちの一つとなり、皆さまが協力してくれたおかげと感謝しております。

現在、大震災からの復旧をはじめ、福島第一原子力発電所事故による健康問題や農畜産物被害への対応など課題は山積していますが、復旧・復興を最優先課題とし、次の世代に「白石の誇り」を引き継ぐため、第五次総合計画の戦略テーマである「人・暮らし・環境が活きる交流拠点都市づくり」に取り組んでまいります。

そして、第五次総合計画の5つの目標である「豊かな感性と人間性を育み、伝統文化を継承するまち」「安心して子どもを産み育て、心やすらかに暮らせるまち」「市民が主役になって地域をつくり、交流を楽しむまち」「産業の活力を生む新しい価値を創造し続けるまち」「美しい自然を受け継ぎ、安全で快適に過ごせるまち」を実現するため全力を尽くしてまいりますので、変わらぬご支援、ご協力をお願いいたします。

結びに、皆さま方のこの一年のご多幸をご祈念申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

復興のため議員一同の力を結集し、
さらなる議会改革に取り組みます—

白石市議会議長
保科惣一郎

昨 年は、東日本大震災により多数の人命が失われ、生活基盤が崩壊しただけでなく、福島第一原子力発電所事故により産業・経済にも未曾有の被害を及ぼし、復興対策に明け暮れた年でもありました。

本市におきましても尊い人命が失われ、家屋の損壊やライフラインに大きな被害をもたらしましたが、完全復旧に向け関係各位が鋭意尽力されています。

そのような中、市民生活の復興を後押しするため、姉妹・友好都市をはじめ全国から善意の寄付金が多数寄せられ、感謝の念に耐えません。

この間、市議会独自で政府・国に対して、各種支援措置等を求める意見書を提出し、また、宮城県市長会、県議会、県市議会議長会とともに、早期復旧・復興に向け政府・国会議員に対し要望活動を重点的に行ってまいりました。

市議会としても、「議会自身が行政改革を断行し、市の今後の復興に貢献できれば」との思いから、6月定例会において、議員提出議案により、定数をこれまでの21名から3名減の18名

とする条例案を可決しました。また、議会改革に向け、一般質問での「一問一答方式」を導入し、「市民にわかりやすい議会」を目指し取り組んでまいりました。

本来であれば昨年4月29日であった市議会議員の任期が、災害特例により延長され、7月31日に市議会議員選挙が行われました。新たな18名の議員により、さらなる議会改革と大震災からの復興を目指しまい進してまいります。

市議会では、今後とも市政の諸課題に対する確に的確に対応すべく、議員各位の力を結集し、議会活性化はもとより、大震災を教訓にして、市民の皆さまが「より安全・安心に暮らせるまちづくり」にしっかりと対応するため、議員一同、決意を新たに努力してまいります。

市民の皆さまにおかれましては、今後とも格別なご協力とご支援をたまわりますようお願い申し上げます。

本年が皆さまにとりまして辛多き年でありませう、議員一同ご祈念申し上げます。年頭のごあいさつといたします。